第38回 飛騨文芸祭入賞者決まる

◆文芸祭賞　小説　**中村　佐清**（斐太高校2年生）
◆江夏美好賞　該当者なし
◆高山市長賞　俳句十句　**下垣内町子**（高山市下岡本町）
　短歌十首　**武藤　久美**（高山市七日町3）
◆高山市議会議長賞
　短歌十首　**稲泉　真紀**（高山市大洞町）
　随筆　**後藤　順**（岐阜市鏡島西）
◆高山市教育委員長賞
　俳句十句　**上田真穂子**（高山市昭和町1）
　児童文学　**宮本　清則**（高山市石浦町7）
◆一般社団法人高山市文化協会長賞
　短歌十首　**江尻　恵子**（飛騨市古川町上気多）
　俳句十句　**小林　高子**（高山市八軒町）
　俳句十句　**紺谷健次郎**（高山市岡本町1）
　短歌十首　**栃原よ志ゑ**（高山市清見町三日町）
　短歌十首　**中村喜久子**（高山市片野町5）
　随筆　**はしどかおり**（高山市石浦町5）
　短歌十首　**古瀬　和子**（高山市千島町）
　現代詩　**細江　錠二**（下呂市小坂町大島）
　短歌十首　**山内　朝子**（下呂市萩原町萩原）

◆青竜大賞　小説　**中村　佐清**（斐太高校2年生）
◆青竜賞　俳句五句　**尾上緋奈子**（飛騨神岡高校3年）
　俳句五句　**原田　兼肖**（飛騨神岡高校2年）
　俳句五句　**和仁　大志**（飛騨神岡高校1年）
　短歌五首　**板矢　康佑**（高山西高校2年）
　短歌五首　**尾上緋奈子**（飛騨神岡高校3年）
　短歌五首　**中田　璃子**（飛騨神岡高校3年）
　短歌五首　**米澤　妙希**（飛騨神岡高校2年）

表彰式:平成27年1月1日（木）
新年市民互礼会式場にて（会場:高山グリーンホテル）

劇団四季
ジーザス・クライスト=スーパースター
［エルサレム・バージョン］
いよいよ、10/19（日）午後7時開幕！
土埃が舞う荒れ地を表した急斜面の舞台。ロック調の音楽とパワフルなダンス。青年ジーザス、使徒ユダ、娼婦マリアらが織りなす100分間のステージ。10年ぶりとなる全国ツアー。劇団四季ミュージカルの原点となる作品をお見逃しなく!!

（一社）高山市文化協会加盟団体
文化協会後援
催事のお知らせ

TPC高山写真クラブ写真展
◇日時　十月三日（金）～五日（日）午前九時～午後七時（最終日午後五時まで）
◇会場　文化会館二階展示室

飛騨書道連盟　会員展
◇日時　十月四日（土）～五日（日）午前九時三十分～午後五時（最終日午後四時まで）
◇会場　文化会館四階大会議室

華道家元池坊斐太支部　支部花展
◇日時　十月四日（土）～五日（日）午前十時～午後五時
◇会場　文化会館三階講堂

第五十九回　高山市美術展覧会　搬入・受付
◇日時　十月十一日（土）午前十時～午後三時（時間厳守）
◇会場　文化会館各展示室
※詳細は高山市生涯学習課へ（℡三五-三一五五）

十五周年記念　二〇一四エムドゥ・バレエスタジオ発表会
◇日時　十月十二日（日）午後三時三十分～
◇会場　文化会館大ホール
入場無料

飛騨高山・日本の太鼓頂上饗演
◇日時　十一月二日（日）午後一時～
◇会場　飛騨・世界生活文化センター　飛騨芸術堂
◇料金　指定席三、〇〇〇円、自由席二、〇〇〇円、高校生以下無料

お知らせ　文化協会特別展「マイコレクション展」は、昨年度の第十回をもちまして、いったん終了させていただきます。今年度からは、新たな企画の展示会を計画していますので、ご期待ください。

高山の文化を高めた人々 60

木彫（もくちょう）　元田 月山

元田 木山

昭和28年春　一彫会の勉強会（左から2人目）

仏像が好きで、旅が好き。洋楽を好み、煎茶を欠かさず。アルコールは体質的に受け付けず・・・。

父は大正二年、元田家の長男として高山に生まれました。十代半ばで、山王の麒麟台彫刻や高山別院の山門彫刻（焼失）等を手掛けられた、初代　村山群鳳氏に弟子入りし、彫刻の道に入りました。八年間という修業期間は、今と比較しても長かったと思われます。

この修業から父は木彫を志し、大きなものは、等身大の御神体・教主像、山王の鳳凰台屋根上の鳳凰彫刻、三番叟の五色の雲彫刻、飛騨各地の祭礼の獅子頭、小さなものは、ナツメ材を使った煙草印籠や根付と、本当に多彩な仕事を手掛けていました。

仏像は特に好んで彫っていましたが、戦後間もないころには東京青山のお店を介し、アメリカ人のお土産としてマリア像やキリスト像も沢山彫り、家族を支えたと聞いています。

そんな生活の大変な中、昭和二十年代後半には東京での日彫展に入選。また、中部地方での公募展等に作品を出品しておりました。今と違い、交通物流が不便な時代に、よくぞ長くチャレンジしたものだと思います。

高山では、一彫会というグループで彫刻の勉強会や展覧会、守洞春氏や長倉三朗氏等と美術展を開催していました。

昭和31年　奈良法隆寺、夢殿にて

昭和三十年代の事と思われますが、日本の木彫刻界の巨匠、平櫛田中氏（ひらくしでんちゅうし）が高山市郷土館へ円空像を見に来られたことがありました。一彫会や展覧会などの活動をしていたためか、当時の館長の小林幹氏から電話をいただき、父はすぐさま出かけて行き田中氏と会話をする機会を頂きました。田中氏は、円空像に非常に感銘を受けておられたそうです。

この話には後日談があります。先年、県内在住の芸術院会員の彫刻家　神戸峰男先生と会食する機会を頂き、談笑の中でこの話をしましたところ、田中氏はその足で土岐へ行き、若かりし神戸先生の実家で一泊されたそうです。さらに、東京の先生の指示で神戸先生が東京までお供したと、懐かしそうに話されました。半世紀の時を経て、世代を超えてつながったエピソードであり、こういう事が文化の伝承なのかも知れないと感じました。

話を元に戻しますが、父は円空像の調査・研究等で郷土学の方々とも親交がありました。初代民俗館館長で小糸焼を再興された長倉三朗氏とは、美術と郷土学の両面で話が合い、またアルコールが要らないこともあり、親しくさせて頂いておりました。小糸焼の初窯開きにも立ち合ったと聞いています。

六十代半ばから、両夫婦四人で巡った西国三十三ヵ所霊場、諸国一ノ宮参拝、四国八十八ヵ所霊場巡りの旅は、本当に楽しかったそうで、帰宅するたびに面白い話をしていました。

今から十年くらい前のことですが、木彫刻の巨星　高村光雲氏の彫刻の鑑定をされている高村規氏が我が家にいらっしゃった折り、父の作品を見て頂きました。氏は「父上は、大変ノミを切らした方でしたね。」と評価して下さいました。木彫を志し六十余年、父も喜んでいると思います。

昭和50年　仕事中

平成十年没。行年八十六歳。

平成二十六年度道伝えの日　お月見歌会　●入選作●

◎課題歌「月」
一席　機械音止みて暮れゆく工事場にクレーンを照らし月昇り来る　加藤　一誠
二席「お月様きれい」とぽつり窓辺の娘婦省の理由は訊がずにおこう　江尻　恵子
三席　月よりの光とどきぬ玻璃窓の蟷螂一つ影絵になりて　打保　洋子
病む夫の寝息を確む今日ひと日何事もなし月を見上げる　宇田恵美子
選者推薦
「お月様きれい」とぽつり窓辺の娘婦省の理由は訊かずにおこう　江尻　恵子
甲板に月影さして春望をうたう人あり復員の船　青木　茂

◎自由歌
一席　山里の細き流れの花筏（はないかだ）いずくかに消え春終りたり　瓜田　民子
二席　読点の多き作家の息づかひに沿いて読みをり「瑠璃玉の耳輪」　武藤　久美
三席　盆踊り母はいつしか輪の中へ木の葉のように手足をゆらす　滝上　一恵
選者推薦
妻、娘、姑、ばあば返上し束の間エステにわが身委ねる　小林　伸子
読点の多き作家の息づかひに沿いて読みをり「瑠璃玉の耳輪」　武藤　久美

◎高校生の部　課題「月」（順不同）
【飛騨神岡高等学校】
○優秀賞
夜店では離れないようにと言い訳し月夜の径まで握る君の手　一年　大坪　茉依
月が満ちる「妙希はばあちゃん似だね」って言われ輝く十五夜の空　三年　米澤　妙希
○入賞
空見上げ君と同じ月を見る電話越しの声が重なる　一年　下倉　梨香
戦争の記憶を包む満月は平和への道照らしつづける　二年　川上このか
酸化したバナナに恋する十五歳満月に向かって思いを叫ぶ　一年　大前　沙月
満月の光があまりに眩しくて弱い私を見透かしている　三年　中田　璃子
虫の鳴く声に風の音さえも丸めてゆくかのような満月　三年　尾上緋奈子
【高山西高等学校】
○優秀賞
生い茂る梅雨に濡れたる紫陽花が雨降る夜に隠したうさぎ　二年　上垣内　昴
英Ⅰを勉強して目をこする終わる頃月光る真上で　一年　佐々木裕章
月の色太陽により変わってく月と太陽は比例関係　二年　打江駿一郎
○入賞
帰り道悔し涙が溢れだすそんな私照らす月光ステージで私に光は当たらないでも月明りはいつも私を　三年　小野　杏菜
月光に写し出される人の影ああいとおしき親のぬくもり　三年　中井　太一
晴れた夜金に輝く空の月おとなしくもあり晴れやかでもある　二年　板矢　康佑
さまざまな形で夜をすごす月今日はどんな形ですごすか　一年　大下　里子
月の下細い小道の花たちが風にゆられてお月見してる　一年　渡邉　萌衣
雨音を聞く夜月がきれいだよ君のメールの空を見てみる　二年　金子　実礼
行きたくて追いかけるけど逃げられる恥ずかしいのか欠けてゆく月　三年　村田　真以
望遠鏡を背伸びして月のぞきこむクレーターが見える海が見える　二年　松井　千寿

「なんでも鑑定団」二十年　中島誠之助氏　大いに語る

八月二十六日、文化協会会員を対象とした講演会が、文化会館で開催しました。古美術鑑定家の中島誠之助さんが「目利きの人生談義」と題し、プロならではの含蓄のある楽しい話をお聞きしました。その要点を幾つか紹介します。

○高山は伝統の重みがある町。骨董店は五万人に一軒と言うが、高山では五千人に一軒ある。何回も来て軒並み訪ねた。
○なんでも鑑定団が始まったとき、島田紳助が「まず、中島鑑定士を鑑定しよう」「面白い番組だなぁ、二十年続くぞ」と言った話。

○価値を見分けられる目利きになるには、いいもの・本物をたくさん見ること、夢中で見ること、ただただ感動すること、それを引き出しにためておくこと。見ずにいると目筋が落ちる。
○解説を読んでから見るのはダメ。感動という土台の上に、知識が有るのがいい。

来年度もこうした会員対象の企画を計画しています。ご期待ください。

文化協会加盟団体紹介
【公益社団法人 日本吟道学院　暁友会飛騨本部】
代表　北野龍興

詩吟は、古風というか堅くて難しいと思われていますが、いま詩吟は新しい中に伝統的な日本文化を伝え表現できる、純日本的な芸能として広く愛好されています。

詩吟は、詩歌のこころを感情表現できる、唯一の芸ではないかと思います。詩吟そのものは、非常に単純な旋律ですが、それだけに深みがあります。吟ずる内容は、漢詩、和歌、俳句、新体詩はもとより、自由形式の詩から散文に至るまで幅広くに及んでいて、一人でも大勢でも楽しむことができます。

詩吟とは、「詩を吟味する」という意味で、漢詩だけでなく全ての詩のこころを深く味わうことで、心が洗われ、刺激され、多くのことを学べます。いい声を出してうまく歌うことより、詩のこころを深く味わうことが大事です。

いま、我が会では会員を募集中です。試し入会の方法もあります。まずはお電話をください。

お問い合わせは、高山市本町二-七〇　北野興策宅（℡三三-六九八一）まで